



ボローニャはこんな街

ローマは永遠の都。フィレンツェは花の都。ヴェネツィアは水の都。では、ボローニャは？

イタリアを訪れたことがある人は多くいても、ボローニャを訪れたことがある人は少ないかもしれません。上に挙げた街と比べると観光地としてどこか地味なボローニャ。そんなボローニャと私の出会いは今から約20年前。元プロサッカー選手の中田英寿さんがボローニャFCでプレーしていたときです。サッカー好きの私は、彼の活躍を伝えるスポーツニュースを通じて、中世時代の雰囲気が色濃く残る赤煉瓦の街を知りました。そのときにこの街に抱いた印象はあまり覚えていませんが、きっとポジティブなものだったでしょう。その何年後かに、書店で何気なく井上ひさしさんの「ボローニャ紀行」を手にとったくらいですから。この本を読んでいよいよボローニャに興味を持ち、ボローニャはいつか訪れてみたい街になりました。そのボローニャに今は住んで、ボローニャの街を紹介するこの記事を書いているのですから、人生とは本当に不思議なものです。

・交通の要衝、ボローニャ

ボローニャはイタリア北部に位置しており、大雑把に言うと、フィレンツェ、ミラノ、ヴェネツィアを結んだ三角形の中心辺りにあります。電車を利用すればフィレンツェには40分程度、ミラノには1時間程度、ヴェネツィアには1時間30分程度で行くことがで

きます。ローマまでは2時間程度です。非常に交通の便が良い街です。また、ボローニャの近郊には、生ハムやチーズで有名なパルマ、バルサミコ酢で有名なモデナ、モザイク画で有名なラヴェンナ等、素敵な街がいくつもありますので、イタリア旅行の際にはボローニャを拠点に色々な街を訪れるのもお勧めです。

・塔の街、ボローニャ

中世時代には100以上あったと言われる塔の数は現在では数えるほどに減っていますが、旧市街のほぼ中心にある二本の塔の存在感は今なお衰えていません。一方の塔はGarisendaの塔と言い、傾きという点でピサの斜塔を凌ぎ、イタリアで最も傾いた塔とされています（自慢になりませんが）。残念ながら、この塔の内部には入ることができませんので、絶景を楽しみたい方は是非もう一方の塔へ。こちらの塔はAsinelliの塔と言い、イタリアで最も高い斜塔と言われており、頂上からは文豪ゲーテも絶賛したパノラマを楽しむことができます。赤煉瓦の街並みは必見です。

・ポルティコ（柱廊）の街、ボローニャ

ポルティコの存在なくしてボローニャを語ることはできません。ポルティコは屋根付きの通路（アーケードのようなもの）であり、独特の景観を構成するだけでなく、夏には強烈な日差しから秋冬には冷たい雨から私達を守ってくれる優れたものです。ポルティコの長さは旧市街に限っても40km近くに及び、旧



旧市街の二本の塔



San Lucaへと続くポルティコ



ネプチューンの噴水



旧解剖室

市街の外のものも含めると、60kmを超えます。2021年には、ポルティコの一部がユネスコの世界文化遺産に登録されました。特に有名なのは、旧市街の外周に位置する門Porta Saragozzaから丘の上の教会San Lucaまで続くポルティコ。ボローニャにお越しの際には是非訪れて頂きたい素敵な場所です。

・モータースポーツの街、ボローニャ

先ほどの二本の塔を背にしてRizzoli通りを300mほど進むと、左手にネプチューンの噴水が見えます。ネプチューンの右手には三叉の銚。車好きの方であれば、ここでピンとくるかもしれません。そうです、三叉の銚と言えば、マセラティのエンブレム。ボローニャはマセラティの創業の地でもあります。ボローニャには、他にもランボルギーニやドゥカティがあり、ボローニャと同じエミリア・ロマーニャ州にあるモデナには、フェラーリが本拠を置いています。この辺り一体は「モーターバレー」と呼ばれており、モータースポーツ熱の非常に高い地域です。月曜日の朝には、(特に近年では)フェラーリに対する不平不満の声がどこからともなく聞こえてきます。

・学生の街、ボローニャ

ボローニャは学生の町としても知られています。ここにはヨーロッパ最古とも言われているボローニャ大学があります。卒業生には、地動説を唱えたコペルニクス、神曲を書

いたダンテ等、錚々たるメンバーが名を連ねています。「薔薇の名前」で有名なウンベルトエーコはここで教鞭をとっていました。ボローニャ大学は世界初の人体解剖が行われた大学としても有名で、今でも旧解剖室を見学することができます。ちなみに、先ほど挙げた企業には地元のボローニャ大学出身の方がけっこういます。イタリアの車やバイクが好きでそんな企業で働きたい若者にとっては、ボローニャ大学に留学することはその近道になるかもしれません。

さて、ここまでボローニャの一端を紹介しましたが、ここで冒頭の問いの答え。ボローニャは一般的にla dotta, la rossa, la grassaと呼ばれています。学問(教養)の街、赤色の街、肥満(美食)の街といったところでしょうか。最初の2つについては上で触れましたが、美食の街の食のレポートについてはまた別の機会に。

著者紹介



宮垣 文晴
(みやがき たけはる)

日本弁理士。
2015年に新樹グローバル・アイピーに入所。2016年よりボローニャ在住。
2004年に知財分野のキャリアをスタート。機械、電気電子、ソフトウェア分野の特許出願及び中間処理、クリアランス調査、無効資料調査、鑑定等を担当。
立命館大学大学院修了。専門はロボット工学。